

皆様、初めまして。この度、2019 年度福井県奨学生としてフィンドレー大学に留学させていただいております、三井裕美子と申します。福井県奨学生としてこのような素晴らしい機会を頂けたことを心から嬉しく、大変感謝しております。これから 10 か月間、留学を支えて下さっている方々への感謝の気持ちと初心を忘れずに、フィンドレー大学で一つでも多くのことを学ぶことができるよう、様々な活動に懸命に取り組みたいと思います。

【フィンドレー大学について】

フィンドレー大学はアメリカのオハイオ州に位置する大学です。学部は教育、医療健康、薬学、ビジネス、人文社会学、自然科学の 6 学部あります。キャンパス内にあるジムや図書館は 6 時から 22 時まで、自習室は 24 時間開いており、毎日多くの学生が利用しています。キャンパス内は 24 時間セキュリティの車が巡回しているため、安心して過ごすことができます。



【フィンドレー大学での授業について】

私はフィンドレー大学で英語集中コース (IELP) の授業を受けており、アメリカの大学で学ぶのに必要な英語力をつけるために Reading, Writing, Listening, Grammar, Communication を学んでいます。また、私は IELP の他に Experiences in Japanese, Cultural Connections の授業を取っており、Japanese Film, Pre-nursing, Nursing informatics の授業を聴講しています。

フィンドレー大学は少人数教育をモットーとしており、ほとんどの授業が 20 人前後で行われています。どの授業でも自分はどうか考えるか、どう感じたかを常に問われ、発言することが求められます。そのため、先生の問いかけに対して学生一人ひとりがしっかりと意思表示をしたり、分からないことがあれば授業の途中に質問したりしています。秋学期が始まったころは学生の授業での発言の積極性に衝撃を受けました。私は英語で自分の考えを表現することが苦手ですが、各授業で五回は発言することを決め、授業に取り組んでいます。こ

れからも周りの学生と切磋琢磨しながら意欲的に授業に取り組みたいと思います。

【フィンドレーでの生活について】

私が驚いたことは、学生が「大学の敷地内 (On-campus) に住む」ことです。学生は大学の敷地外 (Off-campus) に住むことも可能ですが、一年生は特にキャンパス内に住むことが勧められています。On-campusには寮とグループハウスの二種類があります。私はグループハウスにアメリカ人、ケニア人、日本人の学生と一緒に住んでいます。学校やフィンドレー市のことなど分からないことを聞くと、とても丁寧に説明をしてくれたり、気分転換にショッピングに連れて行ってくれたりとハウスメイトの優しさに感謝しています。また、家に帰るとその日の出来事や共通の趣味である映画の話をするのでとても楽しいです。



こちらに来て 3 週間が経ちますが、一日一日がとても早く過ぎていると実感しています。10 か月間の貴重な期間を悔いの残らないように積極的に行動し、あらゆる経験ができるように頑張りたいと思います。

本報告書に関して質問、感想等がございましたら以下のメールアドレスにてご連絡ください。 mitsuiy@findlay.edu

10月に入り、フィンドレーでは肌寒く感じる日々が続き、本格的な秋がやってきました。こちらに来て早くも2か月が経ちました。これから定期的なボランティアやサークル活動等が始まるので、体調管理をしっかりと行いたいと思います。

【授業について】

今回は Experiences in Japanese という日本人の学生とアメリカ人の学生が互いの文化について教え合い、学ぶ授業について報告したいと思います。第一回目の授業では日本では「お疲れ様です。」をどのように、どのタイミングで使うかについてアメリカの学生に説明しました。普段の生活でこのようなことを意識して考える機会があまりなかったですが、こちらの大学に来てから日本の文化や慣習について客観的に考える機会が増えたと思います。

また、授業でペアのアメリカ人の学生と一緒に料理を作り、その料理や食事の際のマナーなどについての話をする課題がありました。私たちはおにぎりや焼きそばとお味噌汁を用意し、アメリカ人の学生はよく食べるというひき肉と玉ねぎを炒めたものの上にハッシュドポテトをのせて焼いたものを振舞ってくれました。食事の際のマナーについて、テーブルに肘をついて食べてはいけないことやみんなで揃って食事することは日本でもマナーとしてありますが、アメリカではどの食べ物でも音を立てて食べることは失礼なことであることを知りました。日本には一つの食文化として「すする」という行為があると話をすると驚いていました。何を食べるかという違いだけではなく、食事に対する考え方にもその国の文化が反映されており、様々な相違点が見つけられてとても興味深かったです。



【Kake Festival】

9月16日に約3週間のプログラムでこの大学に来ていた加計学園の学生と一緒に日本の文化について紹介するイベントがありました。そこでは折り紙や浴衣の着付け、書道などの体験コーナーを設け、私は書道のブースを担当しました。私達がお客さんの名前を漢字に当てはめて見本を書き、お客さんに実際に書いていただきました。書き方や余白の取り方など説明の仕方がとても大変でしたが、どのお客さんも嬉しそうに持って帰ってください、私もとても嬉しかったです。



【休日について】

9月は毎週土日に遊園地や学校のイベント、ボランティア等の様々な活動に参加しました。私の所属する Habitat club では、一般の方の庭に芝を植えるボランティアをしました。芝を植えるのは私にとって初めての経験であり、ただ並べればいいのではなく、全体を考えて植えていかなければならないため、とても大変でした。キャンパスから離れて、地域のコミュニティに微力ではありますが貢献できたことをとても嬉しく思います。また、Home coming のイベントの一つであるアメリカンフットボールの試合を見に行きました。Home coming ではフィンドレー大学の卒業生がこの大学に帰ってくる行事で、一年を通してとても大きなイベントです。アメリカンフットボールのルールはとても複雑で難しかったですが、みんなで一丸となって大学のチームを応援してとても楽しかったです。



本報告書に関して質問、感想等がございましたら以下のメールアドレスにてご連絡ください。 mitsuiy@findlay.edu

秋もあつという間に過ぎ、毎日コートとマフラーが必要な寒い冬の季節になりました。フィンドレーでは 10 月下旬に 1 日だけ雪が降りました。こちらの学生に冬について聞くと、まだまだこれから寒くなるということなので、引き続き体調管理をしっかりと行っていききたいと思います。

【Jacobs Primary School】

この授業では、1 か月に 1 回地元の小学校で日本について子供たちに紹介する活動をしています。今回で 2 回目の活動ですが、私たちの名前と前回の授業で教えた挨拶をみんな覚えてくれていて、とても嬉しかったです。

今回は日本語での数字の数え方についての授業をしました。日本語で 1 から 7 までの数え方に似ている発音の英単語を当てはめて伝えと、すぐに覚えてくれました。毎回教えたことを使ってアクティビティをするのですが、前回の授業の際にはルール説明をしている最中に生徒の注意がそれてしまい、收拾がつかなくなってしまっていました。この前回の失敗から、短く、はっきりとしたルール説明を心がけたことにより、今回のボールを使ったアクティビティはうまく進めることができました。

【Fall Break】

4 日間の Fall Break を使って、友人とシカゴに行きました。フィンドレーからシカゴまでは 4 時間ほどで行くことができます。高層ビルが立ち並ぶ街の中に動物園や植物園があり、都会の中に自然を感じることができました。様々な映画の舞台となっているシカゴに行き、街のシンボルである「豆 (The Bean)」を見ることができて良かったです。



【ボランティア】

私はこちらに来てから様々なボランティアに参加しました。今回は Food pantry について報告したいと思います。Food pantry は機関や会社からの寄付による食べ物を低所得の方々に提供するものです。朝の 6 時 30 分集合のボランティアですが、多くの学生が参加しており驚きました。外がまだ暗く、寒い外には食べ物を受け取るための長い列がすでに

できており、待っていた人に話を聞いてみるとフィンドレー以外の所からもたくさん来ていました。普段の生活ではなかなか話す機会の少ない地域の方たちとこのボランティアを通して関わることができて良かったです。

【フィンドレーでの休日】

私の所属する Wilderness club ではキャンパスから 40 分ほど離れた所にある湖でカヤックをしました。カヤックは以前からしたいと思っていたことの一つなので、この機会にすることができて良かったです。また、アメリカ発祥の Corn Maze にも行ってきました。Corn Maze とはトウモロコシ畑の一部を切り取って作られる迷路のことです。私が行った Corn Maze のテーマは宇宙で、実際の迷路の道も宇宙にちなんだ形になっており、スタートからゴールまで約 2 時間かかりました。疲れた後には搾りたてのリンゴジュースがあり、今までで一番おいしく感じたリンゴジュースでした。



本報告書に関して質問、感想等がございましたら以下のメールアドレスにてご連絡ください。 mitsuiy@findlay.edu

皆様、いかがお過ごしでしょうか。早くも渡米してから4か月が経ちました。12月に入ると期末試験が始まります。振り返ると、この4か月間で学んだことの多さに驚くとともに、時間の流れはあっという間であり、この留学も折り返し地点であることを実感しています。

【The Supremes】

ザ・スプリームスのメンバーであった Mary Wilson さんの講演を聞く機会がありました。ザ・スプリームスは1959年に結成されたアメリカの黒人系女性ボーカルグループです。グループが活動していた1960年代のアメリカには黒人差別が残っており、公共の場で飲食ができないほどだったそうです。日常生活を送るうえでさえも制限が多く、メディア業界の中での活動はさらに大変な時代だったそうです。しかし、そのような時代の中でも歌を通して彼女のグループだけ



でなく、たくさんの黒人歌手がヒット曲を出し、次第に黒人差別も少なくなっていくそうです。講演の中で特に印象に残っているのは、彼女のモットーである「Dare to dream」というメッセージです。私も彼女のようにどんなに厳しい環境にあっても、自分の夢や目標に達成するために努力を怠らず、追及していきたいと思います。

【Thanksgiving day】

11月27日から12月1日まで Thanksgiving Break がありました。Thanksgiving は感謝祭であり、毎年11月の第4木曜日がその日となっています。私はこの休暇にアメリカ人の友人の家にお邪魔をして過ごしました。たくさんの親戚の方が集まり、同じ料理を囲み、Thanksgiving の定番であるというドッグショーやアメリカンフットボールの試合をテレビで鑑賞しました。また、集まった子供たちと一緒に近くの公園でアメリカンフットボールやバスケットボールのミニ試合をしました。

Thanksgiving day の次の日の金曜日には Black Friday という大規模なセールがあらゆる小売店で行われます。友人と私は朝の5時に起きて、様々なモールを回りました。どこも

人が多く、大量の買い物をしていました。なぜ、これほどの人が朝のとても早い時間に並んでまで買い物をするのか友人に聞いてみると、ほとんどの人が約1か月後に控えるクリスマスプレゼントを Black Friday にまとめて買うということを教えてくれました。今回の休暇を通してアメリカの文化を実際に体験することができ、とても嬉しかったです。



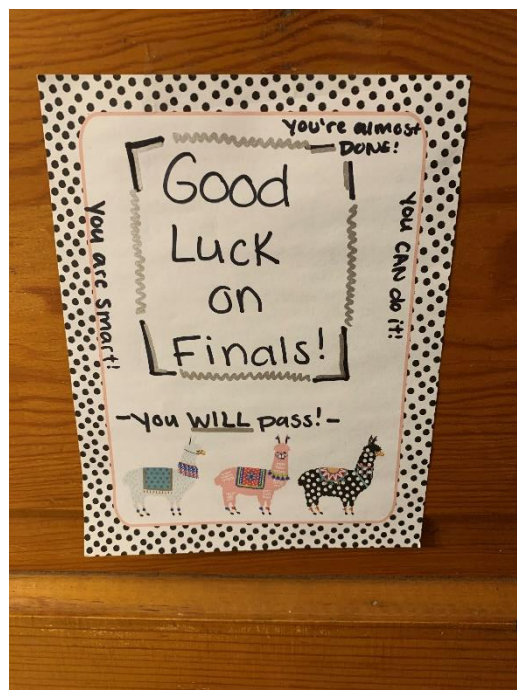
8月、9月は新しい環境についていくのに必死でしたが、ようやくこちらでの生活に慣れてきました。私は今までの4か月間でたくさんの素敵な人たちに会うことができました。毎日、周りの人に支えられながら生活できていることに感謝をし、残りの留学期間も頑張りたいと思います。

本報告書に関して質問、感想等がございましたら以下のメールアドレスにてご連絡ください。 mitsuiy@findlay.edu

新年明けましておめでとうございます。去年はたくさんの方のご支援の下、とても充実した秋学期を送ることができました。心から感謝しています。いよいよ春学期が始まり、留学生活も残り4か月となりました。春学期からはIELPだけでなく、学部の授業も始まります。これからさらに忙しい日々が続くと思いますが、ひとつひとつ丁寧にこなしていきたいと思っています。

【Final Exams】

私は期末試験にペーパーテスト4つ、プレゼンテーション2つとレポート課題が3つありました。以前は日本語でさえ人前での発表に緊張していましたが、秋学期を通してプレゼンテーションをいくつも経験してきたので、期末試験のプレゼンテーションはあまり緊張せずに行うことができました。秋学期の始まった頃は、言おうとしていたことが出てこずに言葉が詰まってしまう失敗が何度もありました。半年間のうちにたくさんの失敗をし、同じ失敗をしないように練習を繰り返したことで、人前での発表に対しての自信が次第につくようになりました。一時はたくさんの課題の締め切りで頭がいっぱいになり不安でしたが、友人と声を掛け合いながら頑張りました。



【冬休み】

私は約3週間の冬休みにニューヨーク、ワシントンD.C.、イエローナイフ（カナダ）へ行きました。ニューヨークでは念願のブロードウェイでアラジンとオペラ座の怪人を観に行きました。圧巻の演技・歌声、細部まで装飾が施された小道具、ステージ仕掛けに終始圧倒され、感動しました。たくさんの魅力が詰まったブロードウェイミュージカルを見ることができて本当に良かったです。また、ニューヨークには世界各国からの観光客が多いのであらゆる言語が飛び交っていました。母国語が異なっても英語という一つの言語を通じて様々なバックグラウンドを持つ人々が交流できることはとても素晴らしいことであると改めて思いました。ニューヨークでの経験は留学の一つの目標である英語力向上に良い

刺激になりました。

年越しはカナダのイエローナイフという所で過ごしました。イエローナイフはオーロラ観測のスポットとして有名です。オーロラを見ることは私の長年の夢であり、今回その夢を叶えることができてうれしいです。イエローナイフの寒さはフィンドレーを上回るものでした。日中でも -15°C を下回り、数分間でさえ外に出ているのが辛かったです。実は、オーロラが出現する条件に地上の気温は関係なく、北緯 $65\sim 70$ 度周辺の「オーロラベルト」に位置することが条件だそうです。そのため、夏でもオーロラは見るができます。とても綺麗だったので、機会があれば暖かい季節にもう一度行きたいと思います。



今までの約5か月間は本当にあっという間に過ぎました。春学期の4か月間は休日が多いため、さらに時間の流れが早く感じると思います。悔いの残らない留学生活となるように一日一日を大切に、丁寧に過ごしていきたいと思います。

本報告書に関して質問、感想等がございましたら以下のメールアドレスにてご連絡ください。 mitsuiy@findlay.edu

皆様いかがお過ごしでしょうか。フィンドレーは2月に入ってより一層寒くなりました。クラスがキャンセルされるほどの悪天候の日もあり、クラスメイトの何名かが体調不良で授業を欠席すること多くなりました。残りの留学生生活の限られた時間を有意義に過ごすためにも、しっかりと風邪の予防をしたいと思います。まだまだ寒い日が続きます、皆様もどうぞお体に気をつけてお過ごしください。

【授業について】

春学期からは IELP の授業だけではなく、Introduction to Religion、American Sign Language (ASL)、Bridging Differences、Experiences in Japanese、Chorale も履修しています。今回は Bridging Differences と American Sign Language(ASL)を紹介したいと思います。

Bridging Differences アメリカは「人種のサラダボウル」といわれるように様々なバックグラウンドを持つ人々が生活しています。授業では人種、宗教、年齢、性別、セクシュアリティに基づいて、メイングループとサブカルチャーグループの類似点と相違点について学んでいます。生徒それぞれの個人の経験談を混ぜてのディスカッションがメインであり、毎回の授業でディスカッションが途切れません。これまでのディスカッションを通して、個人がそれぞれの伝統や文化をととても大切にしており、完全に融合するのではなく、共存しているのだと感じました。

American Sign Language (ASL) この授業では手話の他に Deaf culture についても学んでいます。アメリカの手話と日本の手話または世界各国で手話が異なるのは、皆が同じ言語を話さないように異なる手話を使うことが彼らにとってのアイデンティティーであることを学びました。毎回の授業で新たな手話と Deaf culture を学ぶことはとても楽しく、今学期が終わるまでにはスムーズに手話ができるように頑張りたいと思います。

2月の下旬には中間試験が控えているので、早めに準備を始めて頑張りたいと思います。

【Martin Luther King Jr. Day】

1月20日はキング牧師記念日でした。アメリカでは1月の第3月曜日は、マーティン・ルーサー・キング・ジュニア牧師を称える祝日です。マーティン・ルーサー・キング・ジュニア牧師は公民権運動の先駆的な指導者の一人として非暴力デモを実施して人種差別や不平等と闘い、公民権法や投票権法の可決などに多大な貢献をしました。 "I have a

dream."（私には夢がある）という演説内の言葉が特に有名であり、私が参加した Dr.King Program でも何度も引用されていました。とても力強いメッセージを感じました。今学期に履修している Bridging Differences でも今日に残る人種差別についてのディスカッションをしています。人種差別の話題は敬遠されがちですが、これらにしっかりと向き合い、考えることが大事であると Dr.King Program と Bridging Differences でのディスカッションを通して思いました。



【日本国総領事館】

在デトロイト日本国総領事館総領事夫妻より 2 月 5 日の夕食会にお招きいただきました。夕食会で福井県とフィンドレー大学との奨学生制度の歴史やこれまでの留学生生活を振り返り、こちらに来て経験することができた物事の多さに驚くとともに、このような機会に恵まれたことに改めて大変感謝しております。残りの 3 か月も後悔しないように、「まづやってみる」という心持ちでいろいろなことに挑戦してみたいと思います。



本報告書に関して質問、感想等がございましたら以下のメールアドレスにてご連絡ください。 mitsuuiy@findlay.edu

フィンドレー大学での留学もついに2か月を切り、約50日となりました。しかし、新型コロナウイルス(COVID-19)の影響により3月16日から4月16日まですべての授業がオンライン上で受けることになり、その期間に大学が主催するイベントは中止となりました。このような状況になってしまい大変残念ですが、そのような環境の中でも出来ることを探して取り組みたいと思います。少しでも早く事態が収束することを願ってやみません。

【Midterm test】

2月下旬には中間試験があり、私は中間試験の課題として Bridging Differences の授業で Un Sung Hero について約8ページのレポートがありました。ひとり一人に性別・地域・分野のテーマが与えられたのですが、私のテーマは女性・ラテンアメリカ・音楽で、先生のアドバイスをもとにグロリア・エステファンという女性について調べることにしました。彼女について調べていく中で出会った“Whatever it is your heart desires, please go for it, it's yours to have.”(あなたが望むものが何であれ、思い切ってそれを求めに行ってください。それはあなたのものです。)という彼女の言葉はとても心強く、大好きな言葉です。8ページものレポートを英語で書いたことがないので、期限までに書き終わられるか不安でしたが、納得のいくものを提出することができてよかったです。

【福井県立大学看護学生】

福井県立大学の看護学生3名と先生1名が16日から29日までの2週間のプログラムでフィンドレー大学に来られました。そのプログラムの中でオハイオ州内のいくつかの病院見学があったので、私も一緒に参加させていただきました。いくつかの病院見学の中で、Cleveland Clinic について紹介したいと思います。Cleveland Clinic は U.S. News Ranking において世界で2番目に素晴らしい総合病院と評価されています。Cleveland Clinic の規模はとても大きく、4か国(アメリカ、カナダ、イギリス、アブダビ)に計18の病院があるそうです。

病院見学では、そこで実際に働いている日本人の看護師の方にお会いしました。日本とアメリカの病棟看護師として働くことの違いを聞いて一番驚いたことは、アメリカは病棟ごとに採用され、病棟間での異動がないということです。

日本に帰国したら実習が控えているので、事前に様々なアメリカの病院を見学出来てよかったです。



【Spring Break】

2月29日から3月8日に春休みがあり、私はラスベガスとロサンゼルスに行きました。ラスベガスではアメリカ西部を代表する三大絶景を周遊するツアーに参加しました。世界遺産であるグランドキャニオン国立公園の景色は想像を超えるもので、とても壮大なものでした。グランドキャニオンの谷底の地層は20億年もの前の地層だそうです。自然が作り出した地球の歴史を見ているようでとても感動しました。ラスベガスとロサンゼルスに滞在している間の現地の天気はとても良く、快適に過ごすことができました。



本報告書に関して質問、感想等がございましたら以下のメールアドレスにてご連絡ください。 mitsuiy@findlay.edu

皆様いかがお過ごしでしょうか。昨今のコロナウイルス(COVID-19)の感染拡大により、日本人留学生は 3 月第 4 週中に急遽帰国することになりました。控えていた沢山のイベントに向けて一生懸命に準備をしてきたので、全てキャンセルになってしまいとても残念です。ですが、このような状況だったからこそ学ぶことが出来たものもありました。

今回の報告書が最後になりますが、約 7 か月間の振り返りをお伝えしたいと思います。

【生活について】

コロナウイルスの影響は、急にキャンパス内での生活にもやってきました。例えば、10 人以上での集まりの禁止、人とは 6 ft 離れる、飲食店ではテイクアウトのみ、必要最低限の外出の要請などです。1 日で状況は急変するので、毎日大学からのメールやニュースに細心の注意を払っていました。普段当たり前にしてきたことが禁止されることは思いのほか大変でしたが、先生や Buford Center(学生支援課)の方々の様々なサポートのお陰で生活に困ることはありませんでした。しかし、状況は日々悪化する一方であり、この先のことが全く予測不可能だったので急遽帰国する決断をしました。

【日本人留学生としての活動】

Genki Kids

Genki Kids は前学期から継続してきた活動の一つであり、この活動では地域の小学生に日本語や日本の文化を教えていました。今学期からは週に 1 回のペースになったので、毎回一人ひとりにしっかり向き合って教えることができました。また、3 月 27 日に予定していた International Night というイベントに向けて日本語の曲(かえるの歌)も練習していました。練習を毎週少しずつしていたので、4 回目には輪唱ができるようになっていました。かえるのお面を生徒たちと一緒に作るなどの本番に向けての準備をしてきたので、今回 International Night がキャンセルになってしまいとても残念に思います。今までの活動を通して私たちが教えてきたことが少しでも生徒たちの心に残り、日本の文化や日本語に興味を持ち続けてもらえたらうれしいです。

Children's Mentoring

この活動は Genki Kids とは違う学校に通う生徒に対して行っていました。また、この活動の一環として異文化理解のプレゼンテーションを行う予定の高校生に対して日本について教える活動もしてきました。ここでは日本語というより、主に日本や福井について教えていました。生徒の中には私たちが彼らにとって初めて会う日本人であることもあり、日本について間違いのないように教えることにプレッシャーを感じることもありましたが、私自

身が改めて学ぶ良い機会でした。

【まとめ】

この留学の間は「まずやってみる」という心持ちで挑戦をしてきました。日常生活では授業中に質問があれば間違いを恐れずに発言をすることができるようになりました。小さいことですがその積み重ねにより、他の活動でもその姿勢で取り組むことができるようになりました。また、アメリカの大学で学ぶことにより、普段は意識していなかった日本の習慣や文化を考え直す機会が多かったです。アメリカで生活をしてみて、違いがあることが当たり前であり、その違いに価値があることを知りました。アメリカでの生活を経て、自分の今までの生活について客観的に考える良い機会となりました。

今までのかけがえのない経験は、留学中に支えて下さった家族や友人、福井県国際交流会館の皆様、フィンドレー大学の先生方、そのほか沢山の方々のサポートの下、得ることができました。2020 年度留学生として、フィンドレー大学で学ぶことができたことを大変嬉しく思うとともに、心から感謝しております。



本報告書に関して質問、感想等がございましたら以下のメールアドレスにてご連絡ください。 mitsuiy@findlay.edu

フィンドレー大学で過ごした日々はあっという間に過ぎ去り、今、この7か月間を振り返っても昨日のことのよう鮮明に覚えています。キャンパスに到着したその日から、先生に「この留学期間は長いようで本当に短い」といわれていたのも、一日一日をより丁寧に過ごすように心がけていました。私は、この7か月で自分の物事に挑戦する姿勢が変わったと思います。

フィンドレー大学での授業では、頻繁に自分の意見を問われました。たとえば、私の前に発言した学生と自分の意見が同じであっても「あなたの言葉で聞きたい」と言われたのがとても強く印象に残っています。クラスメイトも、私の考えを理解しようとしてしっかり耳を傾けてくれていたので、とても発言しやすい環境でした。この経験の積み重ねにより、大切なのは完璧な英語を話すことではなく、自分の気持ちを相手に伝えることを心がけることであると思いました。それ以降、英語での友人との会話を心から楽しむことができ、積極的に話しかけるようになりました。

また、留学において自分で決めた「まずやってみる」という心持ちで挑戦したことの一つに合唱があります。私は、前期のイベントでの合唱コンサートの歌声に感動をし、後期の授業で自分も合唱をやってみたいと思うようになりました。ずっとやりたかった合唱ですが、実際に授業を受けてみると、周囲は楽譜を見たらその曲を歌えてしまうようなレベルの高いミュージカル専攻の学生がほとんどで、一回目の授業で全く歌えない自分に強く気後れしてしまったことを覚えています。あまりのレベルの高さに今後の授業についていけるか不安で、履修登録変更の期日ぎりぎりまで悩んでいました。ですが、ここで諦めてしまっただけではもったいないと思い、家で毎日音源を聞いて自主練習をしたので、次第に授業についていけるようになりました。本来であれば、3月下旬に大きなホールでのコンサートが予定されていたのですが、新型コロナウイルスの影響によりキャンセルとなりました。このイベントはたくさんの方々が来場する大きなもので、半年間の集大成を披露できる場でもあったので、これが無くなってしまったことは大変残念です。しかし、先生からの提案により各自が自分のパートをビデオに録音し、先生が、それらのビデオを一つにあわせて Virtual Choir を作りあげていただきました。この試みはアメリカのニュースでも放送されました。やりたかったことを諦めずに続け、形にすることが出来て本当に良かったです。

フィンドレー大学で過ごした7か月間は私にとってかけがえのない経験となりました。日本に帰国をし、「アメリカ」と聞いて最初に頭に浮かぶのはフィンドレー市であり、そこで出会った友人や先生方、お世話になった方々です。周りの方々のサポート無しでは、私の留学生活はこれほどにまで充実したものになっていなかったと思います。また、フィンドレー大学へ留学するチャンスをくださった福井県国際交流会館の方々、フィンドレー大学前学長、家族や友人には感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

最後にフィンドレー大学の Virtual Choir が紹介されたニュースをご紹介します。

https://www.hometownstations.com/news/university-of-findlay-chorale-performs-song-virtually/article_3478c128-899e-11ea-b81d-6badca401dfe.html